

みちしるべ NO. 4

学校教育目標「自分から行動できる子・すすんで学ぶ子・たすけ合う子・きたえる子」



学びあい 支えあい 高めあい 笑顔あふれる学校
優しさと厳しさと温かさで
子どもを鍛え、育む地域の学校を目指して



子どもたちに託す社会を

校長 川島 正晴

文部科学省は10年の単位で学習指導要領を改定していきます。

今、子どもたちが学んでいる内容は、平成29年度(2017年)に改定されたものです。2030年の社会を見据えた内容に改定したと示されています。8年後、6年生は20歳、4年生が18歳で成人です。

戦争が続く今、食糧や燃料の課題が顕著となっています。南極や北極、ツンドラの永久凍土や氷が溶けだして、地球温暖化や環境問題も深刻です。



だからこそ、環境、農業や食糧の問題、平和の問題など、地球規模の課題を学ぶ必要があり、SDGs(2030年までの持続可能でよりよい世界を目指す目標)やPBL(問題発見・問題解決型の学習)への取組が重要な課題になっているのです。



全校遠足では、児童会と6年生が入念に準備を重ね、当日の運営もおこないました。開閉会の担当やゲームの進行を担当し、ごみ袋をもって陸上グラウンドの周囲の除草やゴミ拾い、枝拾いをしました。1~6年生で構成されるたてわりグループでも5・6年生は先頭に立ち、下級生に声をかけたり活動を促したりするなど積極的に運営に参画・協力していました。

1~6年生全員がこの様な体験活動をもとに、自然や環境に関心を高め、学習に生かせればと思います。SDGsの学習は、各教科や生活科、総合的な学習の時間におこなっていきます。

PBLは、1990年代のアメリカで始まった学習形態ですが、現在は様々なやり方で取り組まれています。「探究的な問題発見・問題解決型の学習」などと呼ばれています。学習の過程で探究心や貢献的態度を高めつつ、問題発見力・問題解決力・表現力などの資質・能力を育てていきます。2030年の社会で求められる人々の姿はAIにできない仕事を担うこと。子どもたちに託す社会を改めて考えることが、未来を担う子どもたちへの責任です。保護者・地域の皆様とともに、職員一同、全力で取り組んでまいります。

